

# 校長室だより



令和5年9月 1日

No.1 2

「猛残暑」という言葉を聞きました。「猛暑日」と「残暑」を合わせて、この頃のこの暑さを表わす新語のようです。確かにこの時期の「残暑」は例年ありましたが、それでも気温 30℃くらいだったと思います。それが、今週は連日 35~6℃…。まさに「猛残暑」という言葉がぴったりですね。

教室では子どもたちが夏休みの報告に花を咲かせていました。「プールに行った」「かき氷を食べました」「家族で旅行に行ってお城を見た」…それぞれ楽しかった思い出を披露しあっていました。病院通いに明け暮れた校長とは違って、みんないろいろと楽しく元気に過ごすことができたようでよかったですね。

さて、そんな夏休みの間に先生たちは日頃の記録の整理やら授業や行事の準備、さらには研修や研究に汗を流します。個人で黙々とすることもありますが、集合して行う研究大会などもあります。8月21日には横浜市教委主催で特別支援学校教育課程研究協議会が開催されました。

「教育課程」とは学校での学習の内容や時間数などの組み立てのことで、一定の基準内であれば地域や子どもたちの実態、教育目標等に応じて学校の裁量で組み立てることができます。横浜市内の特別支援学校 13 校ではどのように工夫して授業を行っているのか、その成果や課題はどうなのかなどを発表し合って、特別支援教育に関する先生や関係の人たちで意見を出し合い改善を図り、横浜市の特別支援教育の向上を目指すというとても意義深い研究会が教育課程研究協議会です。

ここ数年はコロナ禍で集合ができず書面やオンラインで行っていましたが、今年度は高島町の市教委研修室に集まっての開催となりました。久しぶりの集合開催ということもあり、300 人収容の部屋が満席状態で熱気いっぱいとなりました。「『育成を目指す資質・能力』にもとづいた授業づくり」というテーマのもと、市内 13 の特支校から「性教育」「言語指導」「評価規準」など各校の課題や研究成果等の発表と意見交換が熱心に行われました。ほんごうからは小学部の菊池先生が研究員として、今年度学校全体で研究テーマとして取り上げている「情報活用能力」の育成を目指した授業づくりについて発表しました。ほんごうで進めている ipad の学習での活用や教科横断的に関連付けた学習の取組（カリキュラムマネジメント）等について実践例を交えながらの説明に他校の先生方も興味深そうな様子でした。

今回は久しぶりに集合形態で行い、あちこちで先生方も「久しぶり」「元気だった？」と挨拶を交わす場面が見られていました。いずれにしても自分の学校だけでなく、他の学校ではどういう取り組みをしているのかという情報を得たり、自分たちの取組に対していろいろな意見をいただいたりする機会はとても貴重だと思います。さらに、そこで得たものを学校に戻って指導支援に生かしていくことが大切です。ほんごうの先生たちも多数参加していましたので、この協議会のお土産がどう生かされてくるか、どうぞお楽しみに。